



一橋大学
イノベーション研究センター

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research



ANNUAL REPORT

2023年度

IIR

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

IIR

ANNUAL REPORT

2023年度

ANNUAL REPORT 2023年度

INDEX

目次

はじめに	
一橋大学イノベーション研究センターについて	i

I. 研究活動	01
1) イノベーション研究フォーラム	02
2) ブラウンバッグランチセミナー	03
3) 国際シンポジウム等	04

II. 研究員	07
1) 専任研究員	08
2) 特任研究員	21
3) 兼任研究員	23
4) 外国人研究員（客員）	23

III. 教育活動	25
1) 講義	26
2) イノベーションマネジメント・政策プログラム	32

IV. 研究成果および刊行物	35
1) 一橋ビジネスレビュー	36
2) ワーキングペーパー	41

一橋大学イノベーション研究センターについて

一橋大学イノベーション研究センター（IIR）は、以下3つのミッションを達成するために1997年4月に発足しました。

- － イノベーションの実証かつ理論的研究の実施
- － イノベーションに関する理論と実践の架け橋になること
- － 世界に開かれた研究拠点・知識融合の場となること

このようにIIRは、イノベーションに関する学術研究にとどまらず、広く実業界とも連携した世界的研究拠点を目指しています。

技術革新から組織革新に至るイノベーションが、社会発展に大きく貢献してきたことは歴史を垣間見れば容易に理解されます。日本のような天然資源に乏しく多くの人口を抱える国が発展を続けるためには、自ら「イノベーション」を生み出すことが必須です。特に欧米諸国にキャッチアップするかたちでの成長が望めなくなった1990年代以降、イノベーションの重要性は大きく高まりました。しかしながら、発明が生まれ、それが産業発展へと実を結ぶまでの長いイノベーションの生成プロセスに対する私たちの理解はいまだ不十分な状況にあります。

イノベーションはすぐれて社会的な営みです。それは経済、政治、組織、歴史、法制度などが相互に関連した複雑な社会現象であり、このプロセスを解明するには、社会科学の様々な専門領域が結集すると同時に、自然科学の知見も取り込みながら、学際的かつ体系的に研究を行う「場」が必要となります。IIRが、日本における産業経営研究の中核組織であった一橋大学商学部附属産業経営研究施設（＝産業経営研究所）を発展改組するかたちで設立された背景には、こうした時代の要請がありました。

IIRの研究領域には、技術、組織、経営手法などのイノベーションを促進する要因を解明する「技術革新研究」・「経営革新研究」、イノベーションの主体である革新者個人の特徴を解明する「革新者研究」、企業、大学、個人などの主体間のつながり方がイノベーションに与える影響を解明する「ネットワーク研究」、イノベーションの背後にある歴史的コンテキストを理解し、その発展プロセスを経時的に追求する「経営史研究」・「技術史研究」、知的財産権などの法制度や会計制度などがイノベーションに与える影響を明らかにする「イノベーション制度研究」、実証研究を大きな理論的な視座から統一的に理解しようと試みる「知識経営研究」、そして、国際的な比較実証分析を行う領域として「国際比較研究」があります。

IIRでの研究が、日本の企業組織や市場、さらに政治や経済の大きな枠組みを創造的に破壊して新しい発展段階へと導く上での重要な契機となるものとわたしたちは信じています。イノベーションの社会的プロセスの研究拠点になる一日本社会が、そして国際社会がイノベーションを進める上で必要とされる能力の、その強化と向上に貢献することを社会的使命として、国の内外を問わず、大学、企業、官界から広く人々が集まって共同で研究することができるような拠点づくりを目指していきます。

沿革

1944年	11月	産業経営の理論的・実証的研究を行う学内の機関として発足した
1945年	5月	名称を東京商科大学産業能率研究所とした
1949年	5月	一橋大学産業経営研究所に改称した
1953年	6月	機関誌『ビジネス レビュー』発刊
1957年	4月	一橋大学商学部附属産業経営研究施設として官制化された
1997年	4月	一橋大学イノベーション研究センターとして学内共同教育研究施設に改組されて発足した
2000年	9月	機関誌『一橋ビジネスレビュー』新創刊
2012年	4月	商学研究科の附属研究施設となった

I. 研究活動

BR

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. イノベーション研究フォーラム——2023年度

イノベーション研究センターでは、イノベーション研究に関する研究会を、他大学の研究者、企業人、官界人らと交えて、月1回程度のペースで行っている。

<https://www.iir.hit-u.ac.jp/blog/2023/01/01/forum-2023/>

国内の研究者にとどまらず、海外の研究者の研究発表を積極的に主催することにより、国際的な研究交流を活発に行い、研究水準のさらなる向上に努めている。

- | | |
|--------|--|
| 4月12日 | Nadine Scholz
“Looking for Allies: How Individuals Organize Collaboration for Experimentation outside Routine Work in Corporate Firms”
(Ph.D. Student in Corporate Entrepreneurship & Innovation, King’s College London) |
| 6月7日 | Anoop Madhok
“Corporate-Startup Partnering: Exploring Attention Dynamics in Asymmetric Settings”
(Professor, York University) |
| 7月4日 | 松本 陽一
“Internal Redeployment versus External Recruitment of Inventors”
(慶應義塾大学商学部 准教授) |
| 10月25日 | Thomas Åstebro
“Death and Turmoil in R&D Teams”
(Professor, HEC Paris and KU Leuven) |
| 11月15日 | Israr Qureshi
“Digitally Enabled Social Intermediation: A Research Framework”
(Professor, The Research School of Management, Australian National University) |
| 12月14日 | Ramya K Murthy
“Digital Platform Ecosystem Design: A Configurational Approach to Understanding Heterogeneity in Platform Meta-Organizations”
(Assistant Professor, Indian Institute of Management Bangalore) |

2. ブラウンバッグランチセミナー——2023年度

イノベーション研究センターでは、イノベーション研究フォーラムに加え、ブラウンバッグランチセミナーを不定期に開催している。

<https://www.iir.hit-u.ac.jp/blog/2023/01/01/brownbag-2023/>

発表者については学内、学外、院生、教員を問わず、テーマはイノベーションに限定せず、比較的アリーステージの研究の発表の場を提供し、活発な交流を行っている。

4月28日	Benjamin Büttner “Demystifying Knowledge Diffusion: Exploring the Effects of Technological Advancements on Knowledge Flows and the Real-life Implications” (Doctoral Candidate, Eindhoven University of Technology)
5月10日	Cristian Dezso “Are There Gender Differences in Ambition? Some Experimental Evidence” (Associate Professor, University of Maryland)
5月24日	Meindert Flikkema “Innovators’ Propensity to Apply for Trademarks” (Vrije Universiteit (VU) Amsterdam)
5月31日	Navruz Khotamov “Exports and FDI under Uncertainty: Multinational Exposure and Innovation” (IIR, Hitotsubashi University)
7月12日	Kristina Kazuhara “Metaphorical Translation: A Case Study of Strategic Change at Novo Nordisk in Japan” (Associate Professor, Copenhagen University / Ph.D. Fellow, Copenhagen Business School)
9月13日	Iilir Haxhi “Conflicts between Firms and Communities: A Configurational” (Associate Professor of Strategy & International Business, Amsterdam Business School, University of Amsterdam)
9月20日	Savu Rovanto “Sustaining Circular Economy Entrepreneurship at Small Businesses in China, Japan and Finland” (一橋大学社会科学高等研究院 講師)
10月4日	Emre Yildiz “Reconsidering Distance in International Business Research” (Associate Professor, Mälardalen University, Sweden)
11月15日	Kidong Lee “Transformation of the Automobile Industries on Societal Impacts-Inroads of Self-Driving Machines” (Professor, Incheon National University / Visiting Professor, IIR, Hitotsubashi University)

3. 国際シンポジウム等

■ 「IIR Innovation Research Workshop 2023」

Venue: Sano-shoin Hall, Hitotsubashi University and Zoom Online

Date: August 28-29, 2023

Organized by: IIR, Hitotsubashi University

August 28

Language: English

Welcoming Message:

13:00-13:10: Yaichi AOSHIMA

Session: Corporate Innovation (Chair: Masaru KARUBE)

13:10-13:50: Yusaku TAKEDA

“Innovation as Catalyst for Greater Diversity: A Mixed-Methods Study of E-Commerce Adoption in US Retail”

13:50-14:30: Na ZOU

“Non-scientists Matter for Science: Business Scholars on Board and Innovation”

Session: AI/Digitalization (Chair: Atsushi OHYAMA)

14:40-15:20: Ohchan KWON

“AI as General Purpose Technology, Open Source Tools, and Diversity of Innovation”

15:20-16:00: Taewon KANG

“Digitalization and Firm Performance: Case of Smart Manufacturing in Korean Firms”

16:00-16:40: Chen ZHU

“The Fundraising of AI Startups: Evidence from Web Data”

Session: Invited Session (Chair: Yaichi AOSHIMA)

Guest Speaker

16:50-17:50: Seiichiro YONEKURA

“Do We Really Need Innovation?”

Closing:

17:50-18:00

August 29

Language: English

Session: Bibliometrics (Chair: Tohru YOSHIOKA-KOBAYASHI)

9:00-9:40: Atsushi TSUMITA

“Does Innovation Require Serendipity?: An Exploratory Textual Analysis of Business Cases”

9:40-10:20: Rene CARRAZ

“An Exploratory Study on Academic Patent-paper Pair Matching: Insights from Japan’s National Research Universities and Laboratories”

10:20-11:00: Santiago RUIZ-NAVAS

“Following the Hints of Industrial Convergence: A Semantic Analysis of BBC, NHK and Netflix’s Scientific Papers”

Session: Chinese Firms (Chair: Ivar PADRÓN-HERNÁNDEZ)

11:10-11:50: Jaeyun HO

“Contributing, Coordinating and Chairing: The Catch-up of Chinese Firms in a Standard Developing Organization”

11:50-12:30: Jianwei DANG

“Steering for a New Continent?: Chinese Innovators’ Global Patent Portfolio Rebalancing”

Session: Late-Comers (Chair: Byeongwoo KANG)

13:20-14:00: Chia-Ling (Eunice) LIU

“International Ambidexterity, Networks and Global New Product Development: Do Latecomers Really Catch up?”

14:00-14:40: Chan-Yuan WONG

“A Search Dilemma for New Roles and Market Niches: The Cases of Samsung, Korea and TSMC, Taiwan in a Time of US-China High-Tech Decoupling”

Closing message:

14:50-15:00: Kentaro NAKAJIMA

II. 研究員

RI

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

RI

1. 専任研究員——2023年度



青島 矢一

■ 履歴

- 1987年 一橋大学商学部卒業
- 1989年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了
- 1989年 一橋大学大学院商学研究科博士課程入学
- 1991年 マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院博士課程入学
- 1996年 Ph.D. (経営学) マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院
- 1996年 一橋大学産業経営研究所専任講師
- 1997年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 1999年 一橋大学イノベーション研究センター助教授
- 2007年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2012年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 2018年 一橋大学イノベーション研究センター長 (～2023年3月)

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

青島矢一・金柄式「余剰資源と革新活動」『組織科学』56巻4号, 2023年6月, 4-19頁

吉田聖崇・青島矢一「ビジネス・ケース Akatsuki Ventures: 経営理念の実現を目指したCVC投資」『一橋ビジネスレビュー』71巻1号, 2023年6月, 130-142頁

李樹萱・青島矢一「R&D資源の外部調達と企業の研究者の転出」『組織科学』57巻2号, 2023年12月, 113-129頁, 査読有り

藤原雅俊・青島矢一「ビジネス・ケース FLOSFIA: α 型酸化ガリウム半導体のイノベーション」『一橋ビジネスレビュー』71巻3号, 2023年12月, 112-132頁

1.2. その他

淺羽茂・青島矢一「平成日本企業の失敗、背景と教訓(上) リスクとらぬ経営、成長阻む」『日本経済新聞』2023年12月4日, 朝刊, 経済教室欄, 16面



市川 類

■ 履歴

- 1988年 東京大学教養学部基礎科学科第二卒業
- 1990年 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程修了
- 1990年 通商産業省入省
- 1997年 マサチューセッツ工科大学 技術・政策プログラム修士課程修了
- 2001年 経済産業省産業技術環境局 産業技術政策課課長補佐
- 2004年 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）企画調整課長ほか
- 2006年 資源エネルギー庁 新エネルギー等電気利用推進室長
- 2007年 日本貿易振興機構（JETRO）ニューヨークセンター情報技術部長
（情報処理推進機構（IPA）ニューヨーク事務所長）
- 2010年 経済産業省産業技術環境局 産業技術総合研究所室長
- 2011年 長岡技術科学大学 経営・情報系 教授
- 2013年 政策研究大学院大学 科学技術・学術政策プログラム博士課程修了
（博士（政策研究）取得）
- 2013年 内閣官房 情報通信技術（IT）総合戦略室 内閣参事官
- 2017年 産業技術総合研究所 人工知能研究センター副研究センター長
人工知能研究戦略部長（2018年～）
臨海副都心センター所長（2019年～）
- 2020年 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 2023年～ 一橋大学イノベーション研究センター特任教授
- 2023年～ 東京工業大学データサイエンス・AI 全学教育機構特任教授
- 2023年～ 科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センターフェロー

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. その他

市川類「自治体行政の視点 人工知能とこれからの公務員に求められる能力」『自治大学
校からの情報発信』（総務省自治大学校）Vol. 32, 2023年9月

https://www.soumu.go.jp/main_content/000904349.pdf

市川類「AI ガバナンスを考える (1) - (10)」『日本経済新聞』2024年2月2日～16日，朝刊，
やさしい経済学欄

市川類「生成 AI の社会的リスクと世界の AI 規制・ガバナンス政策動向」『技術と経済』（一
社）科学技術と経済の会）第688号，2024年5月

<https://www.jates.or.jp/tecnicaleconomydigital/2024/dp2405.html>

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

市川類「第四次 AI ブーム (ChatGPT) による世界の AI ガバナンス制度の進化 ~ChatGPT 型 AI システムの社会的リスクと世界の AI 規制・ガバナンス政策の動向~」IIR ワーキングペーパー WP#23-02, 2023年5月

3. コンファレンス, 学会発表

Iritani, Miyako, Manabu Eto, Tagui Ichikawa and Kazuhiko Misawa, “Study on Suitable Management Organizations to Promote Usage of Measurement Instruments Produced by University Research,” PICMET 2023, July 23-27, 2023, Monterrey, Mexico, refereed

市川類「『電気の価値』の再定義から考える電気自動車普及を主とした電力システムの課題と期待~政策視点・消費者視点からのコメント (イノベーション論からの視点)」令和5年電気学会 電力・エネルギー部門大会, 2023年9月4日, 愛知工業大学八草キャンパス, 講演, 座談会・パネル参加, 招待有り

市川類「生成 AI システムがイノベーションに与える影響に係る考察~生成 AI が有さない『人間社会のイノベーション能力』とは何か」研究・イノベーション学会 第38回年次学術大会, 2023年10月28日, オンライン

市川類「欧州評議会の AI 条約案の審議状況と日本への影響~コメント~」情報ネットワーク法学会第23回研究大会, 2023年12月9日, 明治大学駿河台キャンパス, ショート・プレゼンテーション, パネル参加, 招待有り



江藤 学

■ 履歴

- 1983年 大阪大学基礎工学部卒業
- 1985年 大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了
- 1985年 通商産業省入省
- 1989年 科学技術庁科学技術政策局（～1990年）
- 1994年 米国ニューメキシコ大学客員研究員
- 1995年 筑波大学社会科学系講師（～1997年）
- 2000年 外務省経済協力開発機構日本政府代表部（在パリ）
- 2004年 （独）産業技術総合研究所
- 2006年 経済産業省産業技術環境局 認証課長
- 2006年～ 経済産業研究所 コンサルティングフェロー
- 2008年 博士号（工学） 東北大学
- 2008年 一橋大学イノベーション研究センター教授（～2011年3月）
- 2011年 日本貿易振興機構ジュネーブ事務所長（～2013年7月）
- 2013年 一橋大学イノベーション研究センター特任教授
- 2016年 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 2024年～ 一橋大学イノベーション研究センター特任教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

江藤学「標準化を活用したルール作りとビジネスへの活用:規格は成長して標準になる」『一橋ビジネスレビュー』71巻3号, 2023年12月, 62-74頁

1.2. その他

江藤学「日本の歴史を振り返りながら改めて考える『標準化』」『標準化と品質管理』（（一財）日本規格協会）Vol. 74夏号, 2023年6月, 8-11頁

江藤学「大学における標準化教育拡大の壁を破るために」『標準化と品質管理』（（一財）日本規格協会）Vol. 74冬号, 2023年12月, 74-78頁

2. コンファレンス, 学会発表

Iritani, Miyako, Manabu Eto, Tagui Ichikawa and Kazuhiko Misawa, “Study on Suitable Management Organizations to Promote Usage of Measurement Instruments Produced by University Research,” PICMET 2023, July 23-27, 2023, Monterrey, Mexico, refereed



大山 睦

■ 履歴

- 1997年 横浜市立大学商学部卒業
- 1999年 慶應義塾大学 修士（経済学）
- 2002年 シカゴ大学 修士（経済学）
- 2008年 ニューヨーク州立大学バッファロー校 Ph.D.（経済学）
- 2008年 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 IGB ポスドク研究員
- 2009年 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校マネジメント学部講師
- 2010年 北海道大学経済学研究科准教授
- 2015年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2017年4月 メリーランド大学ロバート・スミス・ビジネススクール 客員研究員
(~2018年3月)
- 2022年~ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

大山睦「構造化されたマネジメントの役割：生産性、取引関係、テレワーク」『現代経済学の潮流 2023』(阿部修人, 大湾秀雄, 田中隆一, 谷崎久志(編)) 東洋経済新報社, 2023年8月, 195-220頁

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/keizaigakuchoryu/list/-char/ja>

大山睦「マネジメントや組織がデジタル技術の利活用に与える影響」『経済分析』(内閣府経済社会総合研究所(編)), 2024年3月, 115-131頁

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー, ケーススタディ

Ohyama, Atsushi and Ryo Kambayashi, “Telework, Management, and Technology,” ESRI Discussion Paper Series, No. 375, 内閣府経済社会総合研究所, 2023年4月

3. コンファレンス, 学会発表

Ohyama, Atsushi, “Business Expectation, Forecast Errors, and Dynamics of Transaction Relationships,” 環境技術・産業労働ワークショップ, 2024年1月30日, 一橋大学

Ohyama, Atsushi, “Business Expectation, Forecast Errors, and Dynamics of Transaction Relationships,” CDSS Seminar, February 8, 2024, University of Maryland, USA



軽部 大

■ 履歴

- 1993年 一橋大学商学部卒業
- 1995年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了 修士（商学）
- 1998年 一橋大学大学院商学研究科博士課程修了 博士（商学）
- 1998年 東京経済大学経営学部専任講師
- 2002年 一橋大学イノベーション研究センター助教授
- 2006年 フルブライト客員研究員（プリンマーカレッジ，ペンシルベニア大学ウォートンスクール，2007年12月まで）
- 2007年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2017年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 2024年～ 一橋大学イノベーション研究センター長

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文，本の1章

軽部大・宮澤優輝・橘樹・原泰史・工藤（原）由佳「文献サーベイ：カテゴリー形成過程としての革新現象」『一橋商学論叢』18巻1号，2023年5月，41-54頁

軽部大・宮澤優輝・山田仁一郎「ビジネス・ケース レノバ：持続可能な社会を形にする」『一橋ビジネスレビュー』72巻1号，2024年6月，172-188頁

1.2. その他

軽部大「イノベーションを生む土壌（上） 社会課題解決の先頭に立て」『日本経済新聞』2023年10月31日，朝刊，経済教室欄，30面

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

工藤（原）由佳・宮澤優輝・原泰史・橘樹・軽部大「新しい市場カテゴリーはどのように誕生するか：低糖質市場の形成史」IIR ワーキングペーパー WP#23-03，2023年6月

3. コンファレンス，学会発表

Karube, Masaru, Avimanyu Datta, Tatsuki Tachibana and Yuki Miyazawa, “Grand Seiko’s ‘Spring Drive’: A Blend of Tradition and Modernity,” International Workshop on Craft and New Forms of Organizing, 2023年4月21日，京都大学，招待有り

Karube, Masaru, Avimanyu Datta and Tatsuki Tachibana, “Connecting Dots between Generations: How the Revolutionary Wristwatch ‘Spring Drive’ was Developed and Commercialized,” the 39th EGOS Colloquium 2023, July 6-8, 2023, University Cagliari, Cagliari, Italy

Karube, Masaru, Avimanyu Datta, Tatsuki Tachibana and Yuki Miyazawa, “Connecting Dots between Generations: How the Revolutionary Wristwatch ‘Spring Drive’ was Developed and Commercialized,” 2023 Strategic Management Society Annual Meeting, September 30-October 3, 2023, Sheraton Centre, Toronto, Canada

Karube, Masaru, Avimanyu Datta, Yuki Miyazawa and Gentaro Fujita, “Authenticity Reconfiguration: Forging Cultural Rituals and Modern Trends,” International Workshop on Craft and Emerging Forms of Organizing, April 13, 2024, SMBC Hall, Kyoto University, invited

Jikuya, Yasutaka, Tatsuki Tachibana, Jin-ichiro Yamada and Masaru Karube, “Entrepreneurial Responses to Climate Change: Bridging Innovation and Activism in Sustainable Entrepreneurship,” Society for the Advancement of Socio-Economics (SASE) 2024 Conference, June 28, 2024, University of Limerick, Limerick, Ireland

4. 受賞

日本経営学会より「2022年度日本経営学会賞（論文部門）」を受賞。

（受賞者：内田大輔・芦澤美智子・軽部大，研究成果：「アクセラレーターによるスタートアップの育成：日本のアクセラレータープログラムに関する実証分析」（『日本経営学会誌』第50号掲載），2023年9月）



カン ビョンウ

■ 履歴

- 2006年 東北大学工学部卒業
- 2008年 東北大学大学院工学研究科博士前期課程修了
- 2008年 LG Electronics 研究員（～2011年）
- 2014年 東京大学大学院 Ph.D.（技術経営戦略学）
- 2014年 アジア経済研究所研究員（～2016年）
- 2016年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 2019年～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

Kim, Byeongsik and Byeongwoo Kang, “K-pop’s Internationalization in the Product Adaptation and the Upstream Music Supply Chain in Korea, China, Japan, and the West,” *Asia Pacific Business Review*, Vol. 29, No. 5, June 2023, pp. 1369-1393, refereed

2. コンファレンス, 学会発表

Kang, Byeongwoo, “The Determinants of Parallel Invention: Measuring the Role of Information Sharing and Personal Interaction between Inventors,” DRUID Conference 2023, June 10-12, 2023, NOVA School of Business and Economics, Lisbon, Portugal

Kang, Byeongwoo, “The Determinants of Parallel Invention: Measuring the Role of Information Sharing and Personal Interaction between Inventors,” TFSC Conference 2023, October 28-30, 2023, National Tsinghua University, Hsinchu, Taiwan

Kang, Byeongwoo, “Formation of a Startup Ecosystem by a Local Government: The Case of Fukuoka City, Japan,” Workshop: Entrepreneurial Ecosystems: Theory, Evidence and Practice, March 6-7, 2024, Indiana University Europe Gateway, Berlin, Germany



中島 賢太郎

■ 履歴

- 2003年 東京大学経済学部卒業
- 2008年 東京大学大学院経済学研究科博士課程修了 博士（経済学）
- 2008年 東北大学大学院経済学研究科
地域経済金融論寄附講座（七十七）准教授
- 2010年 一橋大学経済研究所経済制度研究センター准教授
- 2011年 東北大学大学院経済学研究科准教授
- 2017年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2023年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

中島賢太郎『空間経済学の実証研究：数量空間経済学とオルタナティブデータ』三菱経済研究所，2024年1月，51頁

1.2. 論文，本の1章

中島賢太郎「空間経済学から考える大阪経済」『運輸と経済』（（一財）交通経済研究所）83巻8号，2023年8月，56-60頁

Nakajima, Kentaro and Keisuke Takano, “Estimating the Effect of Land Use Regulation on Land Price: At the Kink Point of Building Height Limits in Fukuoka,” *Regional Science and Urban Economics*, Vol. 103, Article 103963, October 2023, refereed

Nakajima, Kentaro, Tsuyoshi Tsuru and Katsuhito Uehara, “The Impact of Brokerage in a Communication Network on Productivity: Evidence from Sensor Data,” *Connections*, forthcoming, refereed

1.3. その他

中島賢太郎・手島健介・山崎潤一「歩いて学ぶ都市経済学 (7) - (12)」『web 日本評論』（日本評論社），2023年4月～2023年9月，

<https://www.web-nippon.jp/33180/>

中島賢太郎「ポストコロナの都市のランドスケープを考える」『都市+デザイン』（（公財）都市づくりパブリックデザインセンター）41号，2023年4月，2-4頁

中島賢太郎「識者に学ぶ 企業業績における近隣効果」『日本政策金融公庫調査月報：中小企業の今とこれから』（中小企業リサーチセンター）181号，2023年10月，36-41頁

2. コンファレンス, 学会発表

Go, Eugenia, Kentaro Nakajima, Yasuyuki Sawada and Kiyoshi Taniguchi, “Satellite-Based Vehicle Flow Data to Assess Local Economic Activities,” the 12th European Meeting of the Urban Economics Association, May 6, 2023, Bocconi University, Milan, Italy

Nakajima, Kentaro, “The Role of Face-to-face Contact in Innovation: The Evidence from the Spanish Flu Pandemic in Japan,” 関西労働研究会, 2023年5月26日, アジア太平洋研究所, 招待有り

Nakajima, Kentaro, “Geography of Business Interactions: Evidence from Business Card Exchange Data,” 都市経済ワークショップ, 2023年6月23日, 東京大学, 招待有り

Nakajima, Kentaro, “Satellite-Based Vehicle Flow Data to Assess Local Economic Activities,” ADB Conference, Infrastructure and Urban Development in the Development World, 2023年8月23日, 東京大学

Nakajima, Kentaro, “Satellite-Based Vehicle Flow Data to Assess Local Economic Activities,” Research Workshop: Monitoring Sustainable Development in the Era of AI, 2023年12月14日, 名古屋大学, 招待有り

Nakajima, Kentaro, “Satellite-Based Vehicle Flow Data to Assess Local Economic Activities,” 5th Meeting on Transport Economics and Infrastructure, organized by Institut d’Economia de Barcelona (IEB) and Grup de Recerca en Govern i Mercats (GiM, UB), January 26, 2024, University of Barcelona, Barcelona, Spain

中島賢太郎「空間経済学の現在：数量空間経済学とオルタナティブデータ」進化経済学会 2023年度年次大会, 2024年3月16日, 福井県立大学, 招待有り

Nakajima, Kentaro, “Urban Land Use Policy and Agglomeration Economies,” 東大 CREI 国際イベント『— 世界における不動産発のイノベーション創発と不動産経済 —』, 2024年3月29日, 東京大学本郷キャンパス, 招待有り

Nakajima, Kentaro, “The Role of Human Interaction on Innovation: Evidence from the Spanish Flu Pandemic in Japan,” Urban Economics Association European Meeting, June 7, 2024, Aalborg University, Denmark



パドロン=エルナンデス イバ

■ 履歴

- 2010年 ヨーテボリ大学商・経済・法学部 国際ビジネス専攻 卒業 (B.Sc. 取得)
- 2011年 日欧産業協力センター研修員 (～2011年9月)
- 2012年 ヨーテボリ大学大学院経営管理研究科 国際ビジネス・貿易専攻 卒業 (M.Sc. 取得)
- 2017年 ストックホルム商科大学 欧州日本研究所 連携研究員 (～2023年7月)
- 2018年 日本学術振興会 外国人特別研究員 (欧米短期) (～2019年1月)
- 2018年 ストックホルム商科大学 欧州日本研究所 日本事務所所長 (～2023年12月)
- 2019年 ストックホルム商科大学大学院マーケティング・戦略研究科 Ph.D. (国際ビジネス)
- 2020年～ 一橋大学イノベーション研究センター 専任講師

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

Padrón-Hernández, I., “Attachment and Adjustment in Expatriate Reactions to the 2011 Tohoku Disasters,” *Journal of Asia Business Studies*, forthcoming, refereed

He, G., and Padrón-Hernández, I. “Home Country Influence in Cross-border Mergers and Acquisitions by Emerging Market Firms: A Systematic Review,” *Multinational Business Review*, forthcoming, refereed

2. コンファレンス, 学会発表

Padrón-Hernández, I., and Lee, J. “Subnational Trade Dependence and Media Sentiment on Bilateral Trade Agreements: Findings from Prefecture-level Japanese Reactions to the EU-Japan Economic Partnership Agreement,” Annual Conference of the Euro-Asia Management Studies Association (EAMSA), November 22–25, 2023, Stockholm, Sweden, refereed

Chow, D., Calvard, T., and Padrón-Hernández, I. “Stigma & Sustainability: The Case of Insects as Food,” Academy of Management (AOM) Organization and Management Theory Division Paper Development Workshop on “Doing Organizational Research around the World,” December 8, 2023, Singapore, refereed

He, G., and Padrón-Hernández, I. “Home Country Influence in Cross-border Mergers and Acquisitions by Emerging Market Firms: A Systematic Review,” Vietnam-Japan International Business Conference, March 27–28, 2024, Tokyo, Japan, refereed



吉岡（小林） 徹

■ 履歴

- 2005年 大阪大学法学部法学科卒業
- 2007年 大阪大学大学院法学研究科 法学・政治学専攻 博士前期課程修了
修士（法学・政治学）
- 2007年 株式会社三菱総合研究所研究員（～2012年）
- 2009年 東京大学政策ビジョン研究センター特任研究員（非常勤，～2012年）
- 2013年 東京大学政策ビジョン研究センター研究補佐員（非常勤，～2014年）
- 2014年 日本学術振興会特別研究員（DC2）
- 2015年 東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 博士課程修了
博士（工学）
- 2015年 一橋大学イノベーション研究センター特任講師（非常勤，～2016年）
- 2015年 東京大学公共政策大学院特任講師（非常勤，～2016年）
- 2016年 東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻特任助教（～2019年）
- 2017年 一橋大学イノベーション研究センター特任講師（非常勤，～2019年）
- 2019年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 2024年～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

井上由里子・佐々木通孝・吉岡（小林）徹「不正競争防止法における『混同のおそれ』の規定要因」『法社会学の最前線』（日本法社会学会（編）），有斐閣，2023年5月，299-317頁

吉岡（小林）徹「イノベーションマネジメントの定石（10）：イノベーションから収益を得る組織的基盤」『一橋ビジネスレビュー』71巻1号，2023年6月，100-107頁

Yoshioka-Kobayashi, Tohru and Sotaro Shibayama, “Determinants of Ph.D. Progression: Student’s Abilities and Lab Local Environment,” *Higher Education*, Vol. 86, Issue 3, September 2023, pp. 693-718

京俊介・吉岡（小林）徹「知的財産法の厳罰化はどのように進むのか？」『中京法学』（中京大学学術研究会）58巻3・4号，2024年3月，215-268頁

1.2. その他

吉岡（小林）徹「カガクへの視点 化学を博士の希望の星に」『化学』（株）化学同人）79巻2月号，2024年，11頁

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

枝村一磨・古澤陽子・吉岡（小林）徹・高橋真木子・渡邊万記子・隅藏康一「研究推進支援人材は外部研究資金獲得や産学連携、研究生産性にどのような影響を与えるか：オリジナルパネルデータを用いた実証分析」SciREX ワーキングペーパー, SciREX-WP-2024-#01, 2024年4月

3. コンファレンス, 学会発表

Akiike, Atsushi, Sotaro Katsumata and Tohru Yoshioka-Kobayashi, “Bothersome Moderating Effects of Product Knowledge and Design Acumen between Product Appearance and Consumer Purchase Intention,” JPIM Research Forum 2023, hosted by PDMA (Product Development & Management Association), Hilton New Orleans Riverside Hotel, New Orleans, U.S.A., September 17, 2023, refereed

吉岡（小林）徹・片岡純也・横田一貴・柴山創太郎・川村真理「博士人材のキャリア満足要因についての実証分析：早期の学位取得や論文生産は満足度を高めるのか？」研究・イノベーション学会 第38回年次学術大会, 2023年10月29日, オンライン

Yoshioka-Kobayashi, Tohru, C. Takayama and K. M. Maki, “Designers Unnamed: Author Accreditation and Product Design Innovation,” NTU-NUS-Hitotsubashi Joint Workshop, hosted by Nanyang Technological University, National University of Singapore and IIR, March 3, 2024, National University of Singapore, Singapore, invited

Yoshioka-Kobayashi, Tohru, “Measuring Product Design Innovations by Design Patents: A Study of the Correspondence between Design Patents and Design Award-winning Products,” International Academic Exchange Seminar between Graduate School of Technology Management at Hanyang University and IIR at Hitotsubashi University, May 8, 2024, Hanyang University, Korea, invited

4. 受賞

研究・イノベーション学会より「ベストペーパーアワード」を受賞。

(受賞者：吉岡（小林）徹・片岡純也・横田一貴・柴山創太郎・川村真理, 研究成果：「博士人材のキャリア満足要因についての実証分析：早期の学位取得や論文生産は満足度を高めるのか？」, 第38回年次学術大会, 2023年10月29日)

2. 特任研究員——2023年度



何 格尔（ホー グーフ）

■ 履歴

- 2017年 華南理工大学経済貿易学部金融専攻卒業
- 2020年 一橋大学大学院経営管理研究科修士課程修了（商学）
- 2023年 一橋大学大学院経営管理研究科博士後期課程修了 博士（商学）
- 2023年 一橋大学イノベーション研究センター特任講師
- 2024年～ 立命館大学経営学部国際経営学科准教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

He, Geer and Hiroyuki Fukuchi, “Inheriting the DNA of Emergingness: Strategies of Advanced Market Firms under Emerging Market Ownership,” *Thunderbird International Business Review*, Vol. 65, No. 3, April 2023, pp. 325-340, refereed

He, Geer, “Enhancement of Advanced Market Firms’ Entrepreneurial Orientation under Emerging Market Ownership,” *Academy of Management Proceedings*, Vol. 1, July 2023, refereed

He, Geer and Ivar Padrón-Hernández, “Home Country Influence in Cross-border Mergers and Acquisitions by Emerging Market Firms: A Systematic Review,” *Multinational Business Review*, forthcoming, refereed

2. コンファレンス, 学会発表

He, Geer, “Words Matter: Discursive Legitimation of Emerging Market Firms’ Mergers and Acquisitions in Advanced Markets,” Annual Meeting of the Academy of International Business (AIB), July 2023, Warsaw, Poland, refereed

He, Geer, “Enhancing Entrepreneurial Orientation Through Inter-Organizational Matching: Insights from Advanced Market Firms under Emerging Market Ownership,” Annual Meeting of the Academy of International Business (AIB), July 2023, Warsaw, Poland, refereed

何格尔「新興国企業に買収された先進国企業の組織は（どう）変わるのか」国際ビジネス研究会年次大会，2023年10月

He, Geer and Ivar Padrón-Hernández, “Home Country Influence in Cross-border Mergers and Acquisitions by Emerging Market Firms: A Systematic Review,” Vietnam-Japan International Business Conference, March 27–28, 2024, Tokyo, Japan, refereed

3. 受賞

Alan M. Rugman Young Scholar Award (Academy of International Business (AIB))

（受賞者：Geer He, 研究成果：“Enhancing Entrepreneurial Orientation Through Inter-organizational Matching: Insights from Advanced Market Firms under Emerging Market Ownership”, 2023年7月）



ホタモフ ナウルズ

■ 履歴

- 2011年 タジキスタン工科大学工学部卒業 (Diploma, 化学工学)
- 2015年 大阪大学 修士 (経済学)
- 2023年 京都大学 博士 (経済学)
- 2023年～一橋大学イノベーション研究センター 特任講師

■ 研究業績

1. 未出版物

1.1. ワーキングペーパー, ケーススタディ

Khotamov, Navruz and Naoto Jinji, “Correlation Aversion in Multinationals: Evidence from Japanese MNEs,” August 2023

Khotamov, Navruz and Naoto Jinji, “Internationalization, Diversification, and Risk Exposure,” December 2023

Khotamov, Navruz, “Multivariate Shocks and FDI: Industry-level Evidence,” March 2024

Khotamov, Navruz, “Exports and FDI in the Presence of Downside Risk.” Revise and Resubmit at *The World Economy*, May 2024

2. コンファレンス, 学会

Khotamov, Navruz, “Exports and FDI under Uncertainty: Multinational Exposure and Innovation,” IIR Brown Bag Lunch Seminar, May 31, 2023, IIR

Khotamov, Navruz and Naoto Jinji, “Internationalization, Diversification, and Risk Exposure,” International Economics Seminar, November 2, 2023, Kyoto University

Khotamov, Navruz and Naoto Jinji, “Correlation of Shocks and Multinational Activity,” International Economics Workshop, March 13-14, 2024, Miyazaki Municipal University

Khotamov, Navruz, “Correlation of Shocks and Multinational Activity,” IEFS Japan Fumio Dei Online Meeting 2023, hosted by Research Institute for Economics and Business Administration, Kobe University, March 30, 2024

3. 兼任研究員——2023年度

■ 岡室 博之

一橋大学大学院経済学研究科 教授

■ 飯屋 広郷

一橋大学大学院法学研究科 教授

■ 西野 史子

一橋大学大学院社会学研究科 教授

■ 福川 裕徳

一橋大学大学院経営管理研究科 教授

■ 植杉 威一郎

一橋大学経済研究所 教授

4. 外国人研究員（客員）——2023年度

■ クリスチャン ラズロ・デジュー Cristian Laszlo DEZSO

研究テーマ 「(1) Gender Differences in Ambition / (2) Gender and Authenticity」

2023年1月10日 ~ 2023年5月22日

■ イ・キドン LEE Kidong

研究テーマ 「(1) Development of Digital Technologies, Impact on Personal Life, Social, and Business

Infrastructure / (2) Organizational Support, Job Satisfaction, Retaining Digital Talent」

2023年10月1日 ~ 2024年2月15日

III. 教育活動

BR

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 講義——2023年度

IIR 教員による講義の概要は以下の通りである。

■ 大学院経営管理研究科の講義

1. 研究者養成コース

「イノベーション経営特論」 秋冬学期 2 単位 軽部大

イノベーション研究と戦略論・組織論が交差する研究領域を念頭に置いて、基本的な古典から近年の英文アカデミック・ジャーナルの研究業績を可能な限り幅広く検討し、近年の研究動向に関する自分なりの鳥瞰図が作れるよう各トピックを構成する予定である。各自が進めている研究課題とジャーナルの世界における主流の研究動向との関連性や結節点を見いだす、あるいは将来的な研究課題を探索する研究戦略を検討する機会を提供したい。

「イノベーション経済特論」 春夏学期 2 単位 中島賢太郎

イノベーションについて経済学的観点からの理解を行うことを目的とする。近年のイノベーションに関する統計的実証研究の紹介を行うことで、本分野についての最新の研究動向について理解を深める。

「知的財産特論」 春夏学期 2 単位 江藤学

特許法、実用新案法、意匠法、商標法、著作権等の知的財産権法や不正競争防止法の制度や運用、さらに技術に関する国際標準化や認証（適合性評価）の仕組みや実態、標準必須特許について基礎的な素養を得る。経済産業省行政官の業務経験を生かした講義に加えて、特許データベースの活用や、知的財産に関する最新の学術研究についても紹介する。

「先端科学技術とイノベーション」 秋冬学期 2 単位 青島矢一

経済社会への影響を考慮せずに現実性のある研究を行うことは難しくなっている。政策立案に関係する研究であれば、それはなおさらのことである。社会学者であっても現実社会に有益な知見をもたらす研究を行うためには、自然科学の発展を深く理解することが必要である。そこで本授業では、社会に大きな影響を与えてきた、また、与えつつある先端科学技術の重要領域を4つから5つとりあげて、最先端のイノベーションの事例を紹介するとともに、その社会科学的な意義を議論する。

「イノベーションと政策・制度」 秋冬学期 2 単位 江藤学

政策や制度がイノベーションに与える影響を知り、イノベーションを起こすツールとして政策や制度を使いこなしたり、新しい政策や制度を立案したりする能力を獲得し、イノベーション研究者・実務者としての基礎的素養とする。政策や制度がどのように作成され、施行され、社会を変革しているかを予測するための基礎的知識と思考能力を獲得する。

「イノベーションと経営・経済・政策」春夏学期2単位

青島矢一、江藤学、中島賢太郎

科学技術イノベーション・システム（科学技術及びイノベーションのプロセス、メカニズム、効果等）を社会科学の側面から俯瞰的にとらえるための講義。イノベーション研究の全体像及び各論の基礎的な知識を身につける。

「イノベーション研究方法論」春夏学期2単位

青島矢一、江藤学、中島賢太郎

科学技術イノベーション・システムの社会科学的研究に必要とされる、定量的、定性的方法論を習得するための講義。イノベーションの研究方法論についての基礎的な概念、視点、理論などを身につけることを目的とする。

「特別講義（イノベーションの国際比較 A）」春夏学期2単位

Ivar Padrón-Hernández

Why do potentially revolutionary products and services fail to become successful? How do companies take care of (or not) innovations developed by firms that they buy? What happens when companies try to introduce radical innovations in new countries? These are some of the questions we will discuss at this course, which aims to provide a deep understanding of the different challenges that arise when a company has to convince a market to accept its innovations. This is even more important in foreign countries, where different sets of norms and unwritten rules may impact the success of innovations. Both through instructor-led lectures, case sessions and a joint project, we study the complex and often overlooked dynamics at the tail end of the innovation process that may make or break a product or service that is otherwise competitive.

「特別講義（イノベーションの国際比較 B）」春夏学期2単位

小泉秀人

Special Lecture (International Comparison in Innovation B) This course teaches quantitative methods for causal inference and encourages students to prepare nascent research ideas within the sphere of broadly defined innovation-related topics. Students without knowledge of innovation-related topics are also welcome. The first half of the course will teach general reduced-form quantitative methods for causal inference, while in the second half, students will learn from class and team discussions about broadly defined innovation-related topics. Either individuals or teams will be required to present their research ideas toward the end of the course. Students are expected to have a vague idea on topics of their interests.

「技術戦略特論」秋冬学期2単位

青島矢一、吉岡（小林）徹

技術的なイノベーションを中心とする、イノベーションに関わる社会現象を経営学の視点から研究するための基礎的な知識を学ぶ。本講義では、イノベーションの特質、イノベーションのパターン、イノベーションの創出、そして、イノベーションと競争との関係性を主たるテーマとする。イノベーションとはどのような特質をもった現象なのか、どのような発生、変化のパターンをたどるのか、企業の競争や産業の構造にどのような影響をおよぼすのか、などの問題を検討する。これらの問題を扱っている主として海外の文献を読み、イノベーション研究に関する既存の概念、視点、理論、方法を理解することを目標とする。

「アントレプレナーシップ特論」春夏学期2単位 カン・ビョンウ
アントレプレナーシップ研究及びイノベーション研究関連の論文を精読する。それを踏まえ、これからどこに研究課題があるのかを考える。同テーマに関する議論の流れを把握と共に実証分析方法について学ぶことを目的とする。

「イノベーションリサーチセミナーⅠ」春夏学期2単位 青島矢一、江藤学
「イノベーションリサーチセミナーⅡ」秋冬学期2単位 青島矢一、江藤学
「研究領域演習（イノベーション）」通年6単位 中島賢太郎、大山睦
「研究領域副演習（イノベーション）」通年4単位 中島賢太郎

「演習／演習 (Ph.D)」通年6単位
青島矢一、江藤学、大山睦、軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎、イバ＝パドロン・エルナンデス、吉岡（小林）徹
「副演習／副演習 (Ph.D)」通年4単位
青島矢一、江藤学、大山睦、軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎、イバ＝パドロン・エルナンデス、吉岡（小林）徹

2. MBA コース

「経営組織」経営分析プログラム 秋冬学期2単位
「経営組織」経営管理プログラム 秋冬学期2単位 青島矢一
企業は、変化の激しい外的環境に効果的かつ効率的に適応する組織的仕組みを構築すると同時に、内部の人々から組織目標達成に必要なエネルギーを引き出す必要がある。こうした外的環境への適応と内的人材への働きかけの微妙なバランスをはかることが、組織マネジメントにとって重要なことである。そのために必要となる、様々な組織の理論や経営技法を提供することがここでの目的である。個人の動機付けに関わるミクロの組織論から、組織の設計や環境・制度との関わりを扱うマクロの組織論にいたるまでをカバーしながら、組織を運営するマネジャーとして必要なスキルを学んでいく。

「ビジネス・エコノミクス」経営分析プログラム 秋冬学期2単位 大山睦
経済学を用いてデータ分析を行う手法を学び、統計ソフトのRを使って自らデータ分析ができるようになることを目指す。また、消費者行動、ゲーム理論、寡占における競争理論に関する基礎的な知識も学んでいく。

「Advanced Course in Management (MBA)」経営分析プログラム 春学期2単位 Ivar Padrón-Hernández
What do companies have to deal with when crossing national borders? In this course, we take a broad approach to studying and discussing different aspects, challenges and opportunities of international management. As globalization is expanding, all countries are host to foreign firms and not only large multinational companies take part in international management. Therefore, understanding the dynamics of international management is valuable not only for students who wish to work in an international setting, but for any student that wants to have a grasp of the modern business environment.

「ワークショップ：経営 A」経営分析プログラム 通年 6 単位

軽部大

「ワークショップ A」経営管理プログラム 通年 6 単位

軽部大

3. HSEP（一橋シニアエグゼクティブ・プログラム）

第25クール

青島矢一：

セッション3：「戦略失敗についての自社ケース」2023年12月14日

セッション3：「戦略的失敗ケースの振り返り」2023年12月15日

セッション5：「私の経営者研究④」2024年3月1日

第26クール

青島矢一：

セッション5：「私の経営者研究④」2024年3月8日

4. EPSON（エプソン経営リーダー育成プログラム）

第3クール

カン・ビョンウ：

「イノベーション・マネジメント」2023年9月26日

5. HFLP（一橋大学財務リーダーシップ・プログラム）

青島矢一：

B コース 第8セッション：「経営戦略論」2024年1月26日

■ 商学部の講義

「イノベーション・マネジメント」春学期 2 単位

吉岡（小林）徹

イノベーションは個人、組織、社会が絡み合う複雑な現象であり、未解明の法則も多々ある。そこで本授業では、イノベーションという現象を複数の焦点（個人、チーム、組織、地域、国）と学術的な視座（組織論、マーケティング論、戦略論、社会学、経済学）を切り替えて多角的に見ていくこと、そして、障壁の原因について自らで仮説を作り検証をしていくことを重視する。

これらの多角的な見方と仮説検証の力を身に付け、産業界や社会活動、行政、学術それぞれの世界で応用可能な次の能力を得ることを到達目標とする。

「イノベーション経済特論」春夏学期 2 単位

中島賢太郎

イノベーションについて経済学的観点からの理解を行うことを目的とする。近年のイノベーションに関する統計的実証研究の紹介を行うことで、本分野についての最新の研究動向について理解を深める。

「イノベーション経営特論」 秋冬学期 2 単位 軽部大
イノベーション研究と戦略論・組織論が交差する研究領域を念頭に置いて、基本的な古典から近年の英文アカデミック・ジャーナルの研究業績を可能な限り幅広く検討し、近年の研究動向に関する自分なりの鳥瞰図が作れるよう各トピックを構成する予定である。各自が進めている研究課題とジャーナルの世界における主流の研究動向との関連性や結節点を見いだす、あるいは将来的な研究課題を探索する研究戦略を検討する機会を提供したい。

「ビジネス・エコノミクス基礎Ⅰ」 秋学期 2 単位 大山睦
ミクロ経済学の理論的枠組みを用いて、消費者や企業の様々な行動を理論的に考察する。企業行動に関する理論を主に学び、現実の経済問題に経済理論を応用できる力を養うことが、本コースの主目的となっている。本コースのキーワードは、産業組織論、価格戦略、製品差別化戦略、情報の非対称性、イノベーションである。

「ビジネス・エコノミクス基礎Ⅱ」 冬学期 2 単位 中島賢太郎
統計的データ分析の理論、方法論の基礎についての講義および統計パッケージソフトによる実習を通じて、受講者が自分でビジネスエコノミクスに関する統計的データ分析が行えるようになることを目的とする。

「デザイン思考とデザイン経営」 春夏学期 2 単位 吉岡（小林）徹 共同講義
「デザイン思考」と「デザイン経営」の「なぜ」を理解することに主眼を置き、その実践例や実践手法について考えていくための、理論的な手がかりと、考える素材を提供する。

「特別講義（イノベーションの国際比較 A）」 春夏学期 2 単位 Ivar Padrón-Hernández
Why do potentially revolutionary products and services fail to become successful? How do companies take care of (or not) innovations developed by firms that they buy? What happens when companies try to introduce radical innovations in new countries? These are some of the questions we will discuss at this course, which aims to provide a deep understanding of the different challenges that arise when a company has to convince a market to accept its innovations. This is even more important in foreign countries, where different sets of norms and unwritten rules may impact the success of innovations. Both through instructor-led lectures, case sessions and a joint project, we study the complex and often overlooked dynamics at the tail end of the innovation process that may make or break a product or service that is otherwise competitive.

「特別講義（イノベーションの国際比較 B）」 春夏学期 2 単位 小泉秀人
Special Lecture (International Comparison in Innovation B) This course teaches quantitative methods for causal inference and encourages students to prepare nascent research ideas within the sphere of broadly defined innovation-related topics. Students without knowledge of innovation-related topics are also welcome. The first half of the course will teach general reduced-form quantitative methods for causal inference, while in the second half, students will learn from class and team discussions about broadly defined innovation-related topics. Either individuals or teams will be required to present their research ideas toward the end of the course. Students are expected to have a vague idea on topics of their interests.

「Interactive Course on Business Basics (Management)」 春学期 2 単位

Ivar Padrón-Hernández

Management is a broad topic that includes several different activities. In this course, we will cover what companies do, how they compete against each other, and the relationship between companies and the societies where they exist. The course focuses mostly on questions of strategy and organization, rather than issues or activities related to leadership, psychology, operations management, finance or accounting. Another characteristic of the course contents is that it often highlights things from an international perspective, considering the increasing role of globalization and students' future careers.

「Advanced Course in Management」 春学期 2 単位

Ivar Padrón-Hernández

What do companies have to deal with when crossing national borders? In this course, we take a broad approach to studying and discussing different aspects, challenges and opportunities of international management. As globalization is expanding, all countries are host to foreign firms and not only large multinational companies take part in international management. Therefore, understanding the dynamics of international management is valuable not only for students who wish to work in an international setting, but for any student that wants to have a grasp of the modern business environment.

「応用ミクロ経済分析」 春夏学期 2 単位

大山睦

応用ミクロ経済学で用いられているデータ分析の手法を学ぶ。経済学と統計ソフト R を使って、卒論やビジネスの場面で応用できるデータ分析の力を養う。

「前期ゼミナール（英書講読）Ⅰ」 春夏学期 2 単位

青島矢一、大山睦、吉岡（小林）徹、カン・ビョンウ

「前期ゼミナール（英書講読）Ⅱ」 秋冬学期 2 単位

青島矢一、吉岡（小林）徹、カン・ビョンウ

「導入ゼミナールⅠ」 春夏学期 2 単位

大山睦

「導入ゼミナールⅡ」 秋冬学期 2 単位

大山睦

「主ゼミナール（4年）」 通年 4 単位 青島矢一、軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎

「主ゼミナール（3年）」 通年 4 単位 軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎

「副ゼミナール（4年）」 通年 4 単位 青島矢一、軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎

「副ゼミナール（3年）」 通年 4 単位 軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎

「3年次ワークショップⅡ」 秋冬学期 2 単位 吉岡（小林）徹（共同講義）

「アカデミック・ビジネス・リサーチ A」 夏学期 1 単位 中島賢太郎 共同講義

「アカデミック・ビジネス・リサーチ B」 秋学期 1 単位 中島賢太郎 共同講義

2. イノベーションマネジメント・政策プログラム——2023年度

■ 概要

イノベーションマネジメント・政策プログラム (Innovation Management and Policy Program: IMPP) は、経営学や経済学を中心とする社会科学の知識を身につけながら、①イノベーションのマネジメント、または、イノベーションを促す政策形成や制度設計に関連するテーマで独自の研究論文を仕上げ、学術的なフロンティアを開拓するとともに、②民間組織におけるイノベーションのマネジメントや公的機関における科学技術イノベーション政策の形成に対して適切かつ重要な影響力をもちうる研究人材を養成することを目的とした、博士レベルのサーティフィケートプログラムである。日本および国際社会がイノベーションを生み出す能力を強化もしくは向上させる上での学術的基盤を担う人材の育成を行う、教育（教員からの学術的知識の習得）と研究（教員との研究の実施）が一体化したプログラムとなっている。

本プログラムは、文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』基盤的研究・人材育成拠点整備事業（領域開拓拠点）」による補助を受け運営している。

■ 受講者

本プログラムには、一橋大学大学院博士後期課程に所属する学生の他、他大学の博士課程の学生、社会人を含む修士課程修了者（もしくは、修士課程修了に相当する者）などが参加可能であり、カリキュラムは、水曜日の夜開講の必修科目と土曜日開講のイノベーションリサーチセミナー、平日開講の選択必修科目、その他特別講義などで構成されている。

本プログラムを修了するには、「イノベーションリサーチセミナー」、「必修科目」、「選択必修科目」の合計14単位の受講に加えて、論文2本の提出が必要となる。

■ 実績

2023年度在学学生 23名

	2022年度入学	2023年度入学
社会人学生	4名	4名
一橋大学博士後期課程学生	2名（2名）	3名（0名）
その他（再入学者含む）	0名	0名

() 内は経営管理研究科の学生

■ 2023年度の主な成果

5月1日～4日	【32nd IAMOT Conference 2023】 学会発表：学生1名 会場：Porto Alegre, Brazil
6月12日～16日	【EURAM 2023 Annual Conference】 学会発表：学生1名 会場：オンライン
7月6日～8日	【39th EGOS Colloquium】 学会発表：学生1名 会場：Cagliari, Italy
7月20日～23日	【2023 Global Marketing Conference】 学会発表：学生1名 会場：Seoul, Republic of Korea

8月28日・29日	【IIR イノベーションリサーチワークショップ 2023 開催】 会場：佐野書院
9月8日～10日	【SciREX サマーキャンプ 2023】 参加：学生6名 会場：政策研究大学院大学
9月30日～10月3日	【SMS 43rd Annual Conference】 学会発表：学生1名 会場：Toronto, Canada
10月28日・29日	【研究・イノベーション学会 第38回年次学術大会】 学会発表：学生1名 会場：オンライン
12月2日・3日	【日本村落研究学会 第71回大会】 学会発表：学生1名 会場：島根県安来市
3月13日	【NTU Entrepreneurship Academy – NUS ISEM - Hitotsubashi workshop 開催】 会場：シンガポール国立大学

■ 講義

必修科目

「イノベーション研究方法論」春夏学期2単位 青島矢一／江藤学／中島賢太郎
科学技術イノベーション・システムの社会科学的研究に必要とされる、定量的、定性的方法論を習得するための講義を行う。

「イノベーションと経営・経済・政策」春夏学期2単位 青島矢一／江藤学／中島賢太郎
科学技術イノベーション・システム（科学技術及びイノベーションのプロセス、メカニズム、効果等）を社会科学の側面から俯瞰的にとらえるための講義を行う。

「先端科学技術とイノベーション」秋冬学期2単位 青島矢一
社会学者と最先端の技術者・研究者の組み合わせによるオムニバス形式の講義を行う。

「イノベーションリサーチセミナーⅠ」春夏学期2単位 青島矢一／江藤学
関係教員全員参加による集中演習。分野横断的な視点から研究指導を行う。

「イノベーションリサーチセミナーⅡ」秋冬学期2単位 青島矢一／江藤学
関係教員全員参加による集中演習。分野横断的な視点から研究指導を行う。

選択必修科目 ※経営管理研究科（研究者養成コース）と共通（Ⅲ-1.参照）

「イノベーション経済特論」春夏学期2単位 中島賢太郎

「知的財産特論」春夏学期2単位 江藤学

「イノベーション経営特論」秋冬学期2単位 軽部大

「イノベーションと政策・制度」秋冬学期2単位 江藤学

IV. 研究成果および刊行物



1. 一橋ビジネスレビュー——2023年度

イノベーション研究センターでは、研究成果の外部への報告として、機関誌『ビジネスレビュー』を年4回発刊してきたが、経営学とビジネスの現場を結ぶ日本発の本格的経営誌をめざして、2000年9月に『一橋ビジネスレビュー』（東洋経済新報社発行）としてリニューアルした。特集論文、経営学最先端のコラム、本格的なビジネス・ケース、経営者インタビューを掲載、最新の経営理論、経営手法の分析など、経営学の最先端の動きを初心者にもわかりやすい形で提示するよう心がけている。編集委員には一橋大学の教員のほか、他大学の研究者も含まれ、さらには外部企業からも編集顧問を迎えて、現場での実情を加味した内容となっている。

■ 本誌の特色

本誌は、経営学、イノベーション研究分野の研究者、学生、MBA、知的ビジネスパーソンなどを対象とし、以下のような点を特徴とする。(1) 大学の学問と現実のビジネスをつなぐために、知的挑戦と創造的対話の場を提供する、(2) 経営学者等の論文、ケース・メソッドを読むことで経営を考える力を養う、(3) 最新の日本企業のケース・スタディを毎号提供する、(4) 学生、MBAのために経営学のイノベーションの系譜をわかりやすく解説する。また、2007年度よりフロア参加者を募り、年1回程度、「一橋ビジネスレビュー・フォーラム」を開催。第一線で活躍している変革リーダー、経営者、専門家を招いての講演、パネルディスカッションを行っている。

■ 編集顧問

野中郁次郎（一橋大学名誉教授）

柳井正（株式会社ファーストリテイリング代表取締役会長兼社長）

山海嘉之（筑波大学教授／サイバニクス研究センター研究統括／サイバーダイナミクス株式会社代表取締役社長／CEO）

■ 編集委員

学内

米倉誠一郎（委員長） 青島矢一 市川類 江藤学 大山睦 加賀谷哲之 加藤俊彦 軽部大 カン・ビョンウ 楠木建 七丈直弘 鈴木智子 中島賢太郎 中野誠 野間幹晴 パドロン＝エルナンデス・イバ 福川恭子 藤川佳則 藤原雅俊 松井剛 吉岡（小林）徹 鷺田祐一

学外

浅川和宏（慶應義塾大学） 浅羽茂（早稲田大学） 生稲史彦（中央大学） 糸久正人（法政大学） 金井壽宏（立命館大学） 栗木契（神戸大学） 國領二郎（慶應義塾大学） 清水勝彦（慶應義塾大学） 清水洋（早稲田大学） 鈴木竜太（神戸大学） 武石彰（学習院大学） 延岡健太郎（大阪大学） 藤本隆宏（早稲田大学） 守島基博（学習院大学） 米山茂美（学習院大学） M. Cusumano（マサチューセッツ工科大学 米国） 李 亨五（淑明女子大学校 韓国） 徐 正解（慶北大学校 韓国）



■『一橋ビジネスレビュー』 第71巻1号 2023年6月

○特集「日本企業の人的資本経営—
持続的な企業価値向上のためにすべきこと」

人的資本経営をめぐる取り組みが進んでいる。その契機となったのは、2020年9月に経済産業省から公表された「人材版伊藤レポート」（「持続的な企業価値の向上と人的資本に関する研究会 報告書」）とあってよいだろう。2022年5月には同じく経済産業省から「人材版伊藤レポート2.0」（「人的資本経営の実現に向けた検討会 報告書」）、8月に内閣官房から「人的資本可視化指針」が公表され、人的資本経営をめぐる議論が加速している。

人的資本経営に対する注目度は高く、編者（伊藤）が発起人代表である人的資本経営コンソーシアムには、2023年5月時点で合計436法人が入会している。このことは、経営者や人事部門が人的資本経営に対して強い課題意識を持っていること、そしてその克服が喫緊のテーマだと捉えていることを物語っている。さらに、2023年3月期からは人的資本の開示が求められ、企業と投資家との間で人的資本に関する対話がこれまで以上に展開されるだろう。様々な論点を深掘りすることを通じて、日本企業の人的資本経営が深化することを期待し、本特集を組んだ。具体的には、人的資本経営の視座と展望、人的資本投資の必要性、人材版伊藤レポートの示唆、ジェンダーギャップ、採用課題などの観点から、従来の人的資源管理の課題、人的資本経営の現状や今後の展望などについて論じている。

○特集論文

- 伊藤邦雄「人的資本経営のパラダイム転換」
- 小野浩「なぜ人的資本の投資が必要なのか？」
- 島貫智行「『人的資本経営』と人的資源管理：『人材版伊藤レポート』からの示唆」
- 児玉直美「職場におけるジェンダーギャップとマネジメントプラクティス」
- 服部泰宏「米国企業との比較に見る日本企業の採用課題」

○連載

- 吉田満梨「エフェクチュエーションによる新市場創造（5・最終回）：非予測的コントロールの論理」
- 吉岡（小林）徹「イノベーションマネジメントの定石（10・最終回）：イノベーションから収益を得る組織的基盤」
- 恵志章夫「産業変革の起業家たち（15）：勤怠管理を起点にしたクラウドサービスを通じて日本の労働生産性向上に寄与する」 インタビュアー 青島矢一／藤原雅俊

○ビジネス・ケース

- 高橋和宏／犬飼知徳／千葉智之／田中公子／生稲史彦「リクルート：『ホットペッパービューティー』による美容業界の変革」
- 吉田聖崇／青島矢一「Akatsuki Ventures：経営理念の実現をめざしたCVC投資」

○マネジメント・フォーラム インタビュアー 伊藤邦雄

- 青井浩（株式会社丸井グループ 代表取締役社長 CEO）
「新しい文化を醸成し、共感ベースの知識創造型企業に生まれ変わる」

○私のこの一冊

- 佐藤大輔「教育と経営に共通する『理解』の課題に迫る：鈴木宏昭『私たちはどう学んでいるのか』」



■『一期橋ビジネスレビュー』 第71巻2号 2023年9月

○特集「闘う第1次産業——クレイジーイノベーターたちの挑戦」

日本は豊かな森林や素晴らしい海洋資源に恵まれた類いまれな立地にある。しかし、自給率は38%と先進国で最低の水準であり、農水産業も林業も補助金なしでは成り立たない。なぜこうなったのか、何がこうさせたのか。本特集の目的はそうした要因や犯人探し、失政叩きをすることではない。今必要なのは、自分の足で立ち、持続可能な第1次産業をビジネスとして確立しようとしている実践者の姿なのである。したがって、本特集では、各分野で新たな取り組みをしている、いわばイノベーターたちに執筆をお願いした。実は彼ら

の取り組みが、日本の第1次産業を抜本的に変革してくれる芽を包含していることに気づくだろう。

○特集論文

山田真次郎「新しい農業革命：都市型植物生産産業の創出」

下苧坪之典／眞下美紀子「持続可能な水産業をめざして：東日本大震災から12年、北三陸から世界へ」

吉田剛「スマート農業は日本の農業を救えるか：システムプロバイダーから見たスマート農業のポテンシャル」

齋藤潤一「ソーシャルテックが地球の社会課題を解決する」

那部智史「日本農政のパラダイムチェンジ：一般農家の廃業と農福連携の台頭」

○特別寄稿

井上達彦／近藤祐大「投資家に評価されるビジネスモデル」

○連載

吉野英樹「産業変革の起業家たち (16)：『火の次の発明』を人類に：核融合で実現する究極のエネルギー」
インタビュアー 青島矢一／藤原雅俊

島貫智行「戦略人事の考え方 (1)：今求められる戦略人事のアップデート」

○ビジネス・ケース

山内裕／鉄川弘樹／平山照峰「ソニー：CMOS イメージセンサーの開発」

小阪玄次郎／遠藤貴宏／坪山雄樹「マクアケ：クラウドファンディングを超えたビジネスモデルの構築」

鈴木智子／王 国堅／沙 辰「パナソニック：ホールディングス：センター・オブ・エクセレンスとしての中国事業」

張 嘉怡「SCSK：合併企業の経営と成長」

○マネジメント・フォーラム

インタビュアー 米倉誠一郎

市川晃（住友林業株式会社 代表取締役会長）

「需要創造と供給ネットワークづくりを通じて：林業のサステナブルな流れをつくる」

○私のこの一冊

中園宏幸『生存バイアス』と向き合う責任：大崎善生『将棋の子』



■『一橋ビジネスレビュー』 第71巻3号 2023年12月

○特集「ルール作りでビジネスを変える」

世界各国・地域が独自のルールを展開し、自国・地域に有利なビジネス環境を作り出している。現代の経済社会では、各市場において自らに有利な形にルールを作り替えなければ市場を失う可能性が高い。日本でもルールを変え、うまく使いこなすノウハウを得て、その力をビジネスに活用する組織が生まれ始めている。本特集は、こうした新たに生まれつつある組織の経験を知ることで、ビジネスツールとしての「ルールを変える力」を日本企業が獲得することを期待して構成した。

○特集論文

羽生田慶介「ルール形成のプロセスにおけるマネタイズの道筋：標準化・規制対応の『兵站』強化こそ日本産業界の急務」

城譲「パブリックアフェアーズによるルール形成の支援活動：電動キックボードの社会実装を事例として」

桜井駿「規制改革、ルールメイキングにおけるエコシステムの役割」

落合孝文／小泉誠／宮田洋輔「民間のルール形成におけるかかわり方の変化：プロトタイプ政策研究所の展望」

江藤学「標準化を活用したルール作りとビジネスへの活用：規格は成長して標準になる」

○連載

島貫智行「戦略人事の考え方 (2)：経営戦略と人材マネジメントの連動」

百合本安彦「産業変革の起業家たち (17)：独立系ベンチャーキャピタルとして：日本発のスタートアップを世界へ」
インタビューアール 青島矢一／藤原雅俊

○ビジネス・ケース

服部泰宏／谷口悦子／金井文宏「日本航空：進化する意識改革」

藤原雅俊／青島矢一「FLOSPIA：α型酸化ガリウム半導体のイノベーション」

宇野舞「ジーニーラボ：小規模 IT サービス企業が推進する間接材購買取引の標準化」

○マネジメント・フォーラム インタビューアール 米倉誠一郎／江藤学

十河政則（ダイキン工業株式会社 代表取締役社長兼 CEO）

「技術とルール作りの掛け算で、グローバルに市場を切り開く」

○私のこの一冊

芦澤美智子「学問と国づくりの関係を再考する：福沢諭吉『学問のすゝめ』」



■『一橋ビジネスレビュー』 第71巻4号 2024年3月

- 「デジタル&バーチャル時代のマーケティング——オンラインとオフラインの融合の先に」

オンライン、オフラインを問わず、あらゆる接点で顧客との関係を築くことがマーケティングの常識となった。今、一貫した体験を空間にかかわらず提供し、自身のビジネスモデルを変革することが問われているが、これらにはさまざまな障壁がある。どのようにすれば顧客との最適な関係が構築できるのか。そして、どのようにすれば最新の技術を受け入れてもらえるのか。本特集では、最新のマーケティング研究からうかがえる新しい定石を概観する。

○特集論文

南知恵子「新技術導入によるオムニチャネル戦略の新たな局面」

田頭拓己「オムニチャネル環境下での小売戦略」

奥谷孝司「現代の顧客が求めるオーセンティシティと買い物体験」

青木哲也「オンラインプラットフォームにおけるマーケティング戦略：YouTube 上のビッグデータ分析より」

日下恭輔「オンラインショッピングでの AR の応用とその効果」

今井紀夫「マーケティングにおける関係性の拡張：DX の視点から」

○連載

佐藤大輔「理解のマネジメント (1)：行為を支える理解」

島貫智行「戦略人事の考え方 (3)：人材マネジメントの一貫性の向上」

伊藤謙自「産業変革の起業家たち (18)：職人からテック企業経営者へ：建設 DX で世界をめざす」

インタビュアー 青島矢一／藤原雅俊

○ビジネス・ケース

鈴木智子「沖電気工業：デザイン思考の浸透と全員参加型イノベーションの推進」

大倉健／堀圭介「宮下酒造：クラフト酒文化の創発と創出」

西原（廣瀬）文乃／長縄玲央「花王：蚊よけクリーム『ビオレガード モスブロックセラム』の開発」

○マネジメント・フォーラム インタビュアー 米倉誠一郎

三木谷浩史（楽天グループ株式会社 代表取締役会長兼社長）

「デジタル技術とビジネスモデルの革新で国内外の障壁に挑む」

2. ワーキングペーパー——2023年度

イノベーション研究センターでは、個人または共同研究の過程で明らかになった最新の成果をワーキングペーパーとしてタイムリーに発表している (<https://pubs.iir.hit-u.ac.jp/admin/ja/pdfs/index>)。

- WP#23-02 市川類「第四次 AI ブーム (ChatGPT) による世界の AI ガバナンス制度の進化～ChatGPT 型 AI システムの社会的リスクと世界の AI 規制・ガバナンス政策の動向～」 2023年5月
- WP#23-03 工藤（原）由佳・宮澤優輝・原泰史・橘樹・軽部大「新しい市場カテゴリーはどのように誕生するか：低糖質市場の形成史」 2023年6月

The new combinations appear discontinuously, then
the phenomenon characterising development emerges.

Joseph A. Schumpeter
The Theory of Economic Development

編集・発行 一橋大学イノベーション研究センター
〒 186-8603
東京都国立市中 2-1
TEL 042-580-8411 (代表)
FAX 042-580-8410
<http://www.iir.hit-u.ac.jp>



一橋大学
イノベーション研究センター

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research